

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 1 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	関口雄祐
研究課題	眠れるって最高：安全安心だからこそその眠りとどんな環境でも不可欠な眠り				
研究キーワード	睡眠, 疲労, 回復	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	14. 海の豊かさを守ろう	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2022 年度に引き続き、御蔵島（東京都）周辺海域に生息する野生イルカ群のドローン撮影による観察を 2023 年 6 月、10 月に実施した（10 月については、悪天候のため御蔵島に上陸できず調査遂行できず）。この調査は、天候・海況に大きく左右されるため、単独研究で、年に数回の調査では、分析に耐えるデータを得ることが困難であることが判明したため、御蔵島観光協会と共同研究として、進めていく方針として、データの共有等を進めている。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

Kodai Aota, Yuske Sekiguchi, Hisashi Matsubayashi, Daiki Inamori, Haruka Hiramatsu, Dale M. Kikuchi; Tandem sleep : a novel behavior in melon headed whales, Mammal study 49(1), (28 November 2023).

【著書・論文（査読なし）】

関口雄祐；持続可能なイルカウォッチングのあり方を探る ―ローカーボン航法の提案―，千葉商大紀要 第 61 巻 第 3 号（2024 年 3 月） pp. 37-52

（監修，解説）生きものたちの眠りの国へ，森由民，緑書房，2023，pp224

【学会発表等】

関口雄祐，稲森大樹，井上聡，勝俣浩；飼育下における小型ハクジラ（イルカ）類 3 種における睡眠行動の検討，日本動物行動学会第 42 回大会(京都)（2023 年 11 月）

3. 主な経費

- ・調査旅費（御蔵島）

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- ・国際海洋生物研究所（鴨川シーワールド）客員研究員（2019 年度～；研究費年間 30 万円）
- ・東京農業大学 客員教授（2022 年度～）
- ・日本動物行動学会編「動物の行動と心の事典（仮）」編集委員

（本文は 2 ページ以内にまとめること）